

7節 受変電設備工事

1) 一般事項

a. 引込み

電力の引込み位置、方法と異なる場合は、監理

b. 機器の製作図面など

機器は、あらかじめ製

c. 機器および材料

- (1) 詳細は設計図書による
- (2) 特記仕様書に明記する。

d. 機器の配置と配線

機器の種類とその配置
配置図(平面・正面・側

2) 配電盤

a. 設計図書にもとずいて

b. 配電盤の予備品および設計図書で指定されて

3) 主要機器および器具

- (1) 変圧器
- (2) 交流遮断器
- (3) 高圧進相コンデンサ
- (4) 直列リアクトル
- (5) 断路器
- (6) 高圧負荷開閉器
- (7) 限流ヒューズ
- (8) 避雷器
- (9) 高圧電磁接触器
- (10) 高圧カットアウト
- (11) 盤内器具

これらの機器および器具
承諾を受けて使用する。

義のうえ施工する。なお、設計図書

諾を受ける。

いて立会い試験および検査を受け

これらは施工前にあらかじめ機器の
を作成し、監理者の承諾を受ける。

作する。

、納入する。

、あらかじめ必要な図面等を提出し

5) 機器類の据付け等

a. 耐震措置

地震時の水平移動、転

b. 配電盤

設計図書および承認図

c. 電力用機器など

変圧器、交流遮断器、高
適合するボルトなどを
設ける。

d. 断路器（高圧負荷開閉

(1) 刃は断路した場合、

(1) 刃は、ほかの器具お
質の場合は、1m以

(2) 断路器は、負荷電
は通電中に開閉操作
る。ただし、負荷電

e. その他の機器の取付け

つり下げ形高圧負荷開
堅固に取り付ける。

f. 枠組

(1) 枠組の構造、寸法な
ブ、配管用炭素鋼管
床面および造営材に
を確認し塗装を施す

(2) 枠組には、D種接

g. 護さく

設計図書により施工

6) 配線

a. 主回路導体

設計図書および承認図

b. 母線の支持

(1) 母線を枠組で支持
を使用する。原則と

(2) 高圧用がいしは、II
がいし)またはドラ
よる曲げ耐荷重に耐

(3) 開放形のものに使用する電線相互および電線と造営材との離隔距離は、下表による。

堅固に固定する。

って施工する。

度を有する床面または基礎の上に
設けた場合は適合するストッパを

側面に接続する。

隔する。ただし、造営材が可燃物

構造のものを使用するか、あるい
の開閉状態表示などの措置を講ず
よる。

ーズなどは、操作が容易な場所に

特に指示のない限り、フレームパイ
鋼を適当な組立て金具で組み立て、
付ける。枠組には、監理者に塗装色

および形状に適合した支持がいし
り付ける。

3851 (屋内用エポキシ樹脂ポスト
各の電圧、短絡電流による電磁力に

表 - 電線の離隔距離

離隔距離	と造営材間 (mm)
標準値	120
最小値	70

c . 機器などへの配線

- (1) 交流遮断器、変圧器
う保護筒、絶縁キャ
- (2) 点検用通路は高圧材
のある場合は、保護
- (3) 計器用および制御用
計器用および制御用
る。

ただし、ビニル絶縁

d . ピット内配線

高圧ケーブル、低圧ケ
を設ける。

7) 接 地

本章 4 節「接地工事」に

8) 直流電源装置

a . キュービクル式直流電

b . 据付け

蓄電池の架台は、鋼製
の種類に適合する耐酸

8) 検査および試験

工事完了後は、監理者立
理者の承諾を受ける。

a . 検 査

検査は、機器および配

b . 試 験

- (1) 高圧および低圧回路
- (2) 絶縁耐力試験 (高圧部分に限る。)
- (3) 接地抵抗試験
- (4) 配電盤

と造営材間 (mm)

120

70

端子部には、充電部が露出しないよ

に母線などに容易に触れるおそれ

用ケーブルなどを使用して配線す

工事 などにより配線する。

に接触しないようセパレータなど

る。

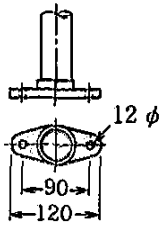
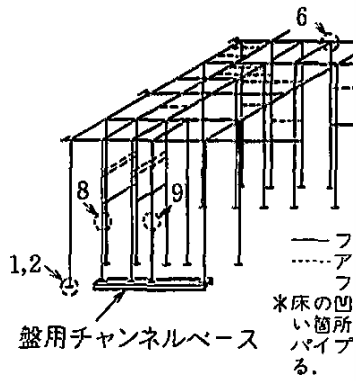
規定する。なお、架台には、蓄電池

を行い、その試験成績表を提出し監

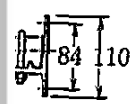
査および試験」に準ずる。

(5) 直流電源装置

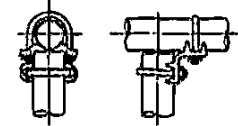
参考図



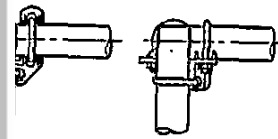
(1) 床付ネジ
フランジ



床付金物



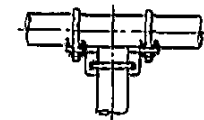
(4) 直角金物



5) 直角二方出金物



出金物



(7)



クランプ

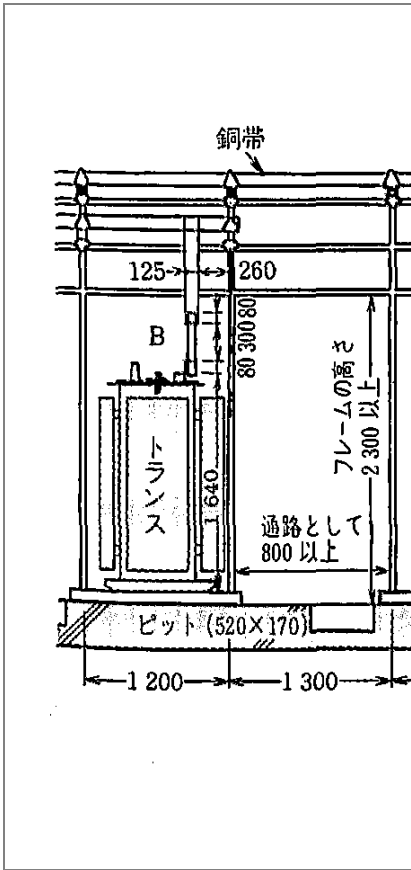


(9) エンドクランプ

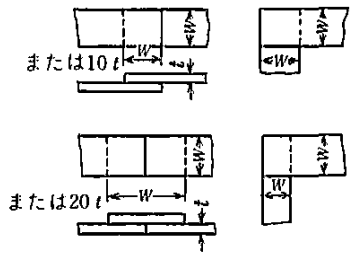
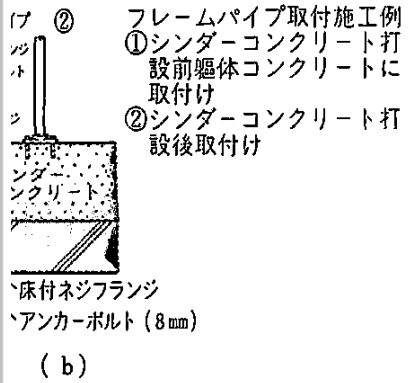
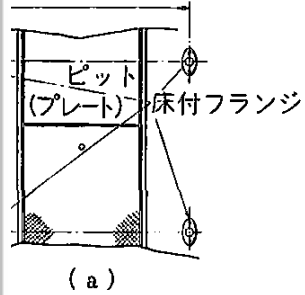
物

見

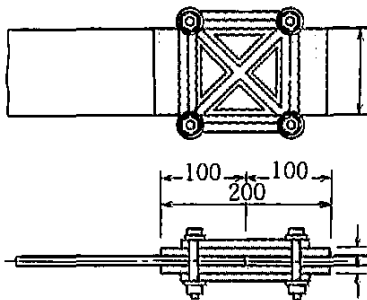
本



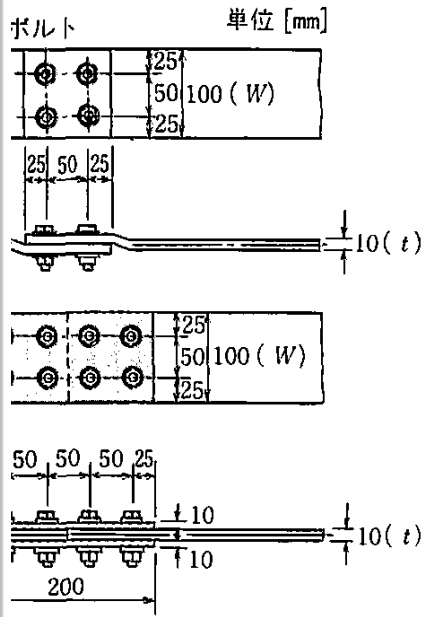
見 本



(a) 重ね合わせの

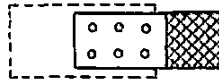


(b) クランプ接続例

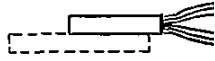


(c) ボルト接続例

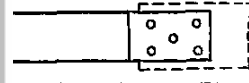
銅帯の接続方法



銅編組, 銅条フ



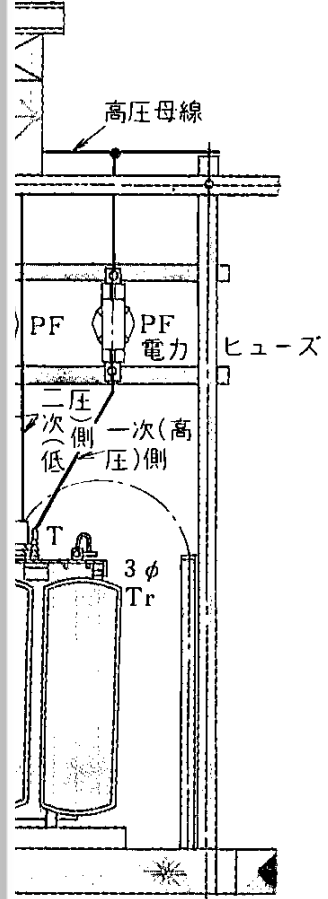
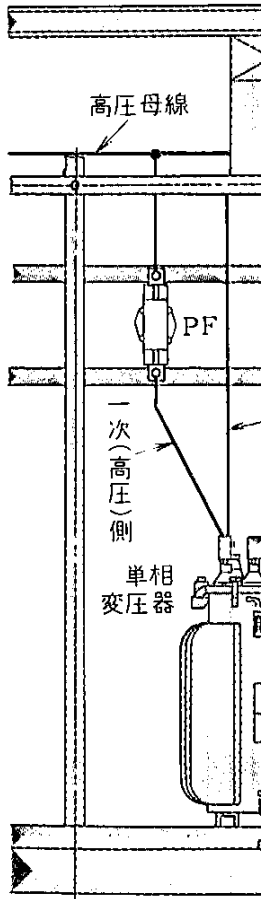
銅編組線コーペ



フレキシブルの一例

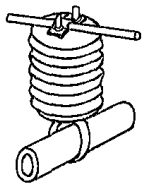


フレキシブル (ボルト接
が接続, 周辺溶接)

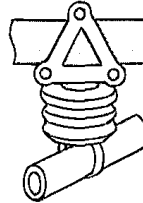


見

本



丸母線支持用
ドラムがいし

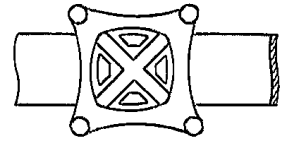


銅帯支持用
ドラムがいし

支持がいし



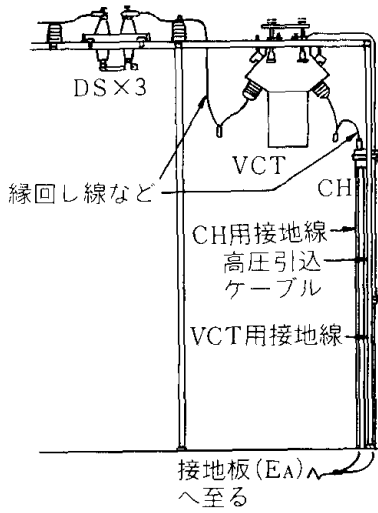
丸クランプ



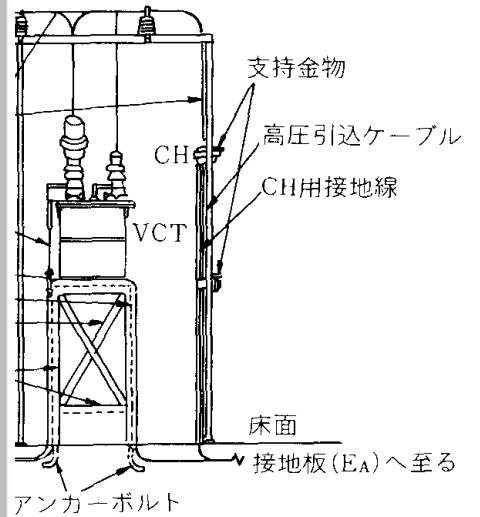
四角クランプ

クランプ

見

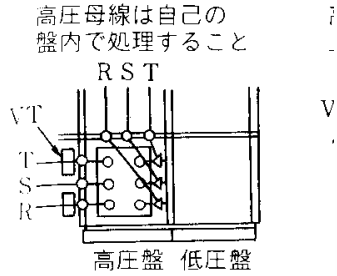


VCTのつり下げ

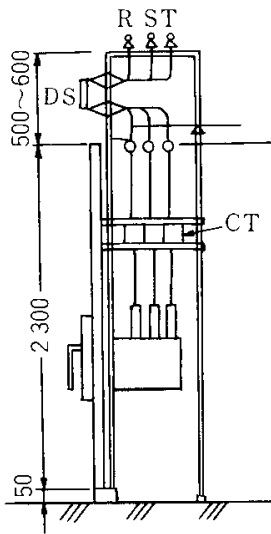


VCTの架台取付

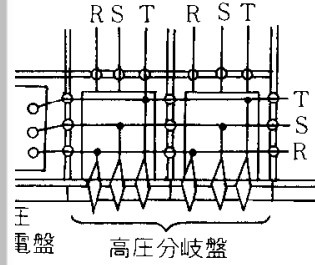
本



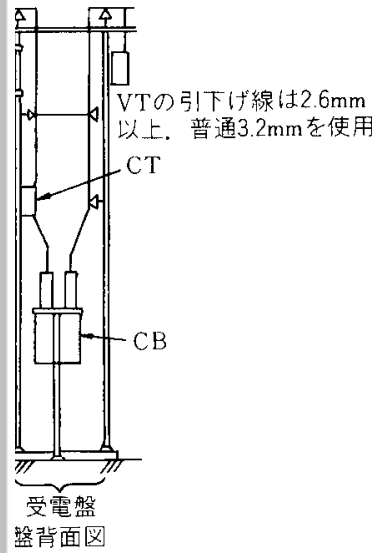
(a) 高圧受電盤と併



(c) 分岐盤DSの取付
高圧盤フレームI
高圧盤フレ-



電盤と高圧分岐盤の場合



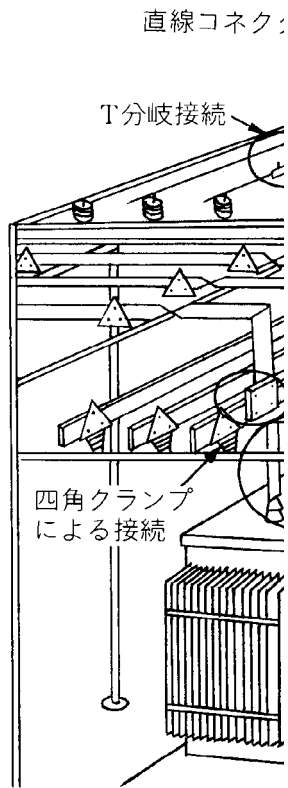
)

(母線配列に注意)

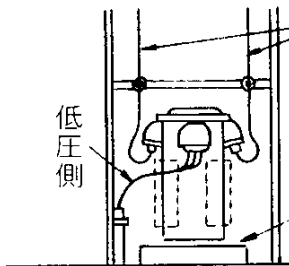
見

本

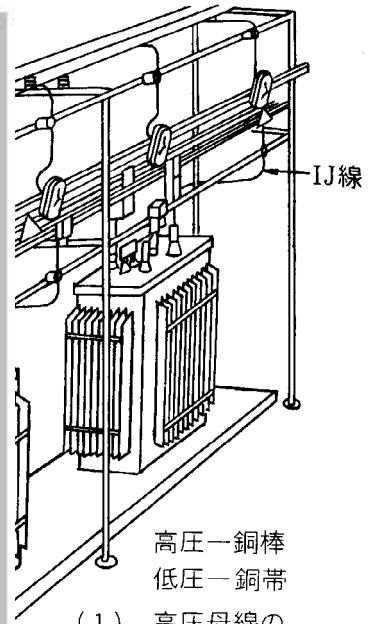
单相変圧器3台による三



- (5) 高圧母線の支持が
- (6) 受電室およびこれ
- および母線と他のも



見

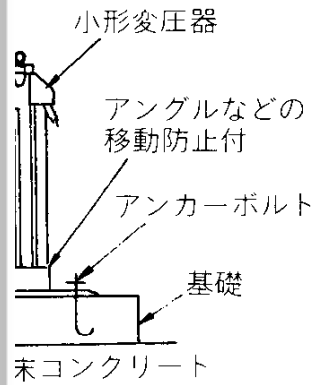


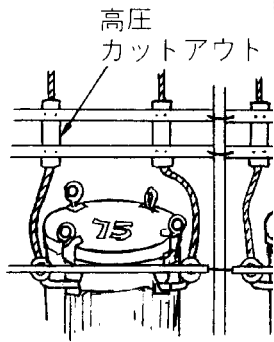
- (1) 高圧母線の取付は高圧機器の端子にその重量、張力がかからないように施設する。

、保安上、高さ2.3m以上ることが望ましい。
 しての高圧引下げには、線を使用する。
 部は金網などで保護し

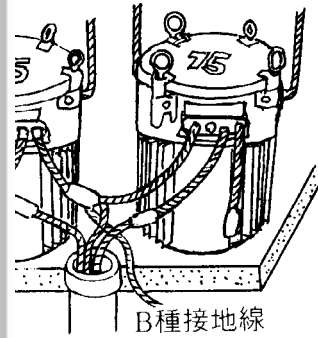
あるものを使用する。
 付は、母線相互の間隔、

本



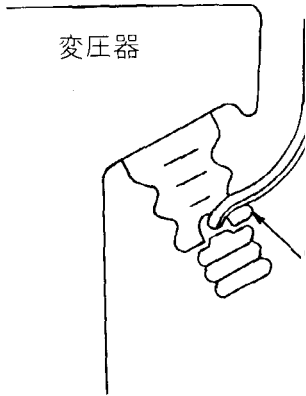


変圧器の一次側

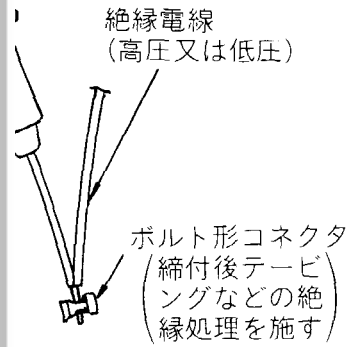


の二次側結線 (V結線)

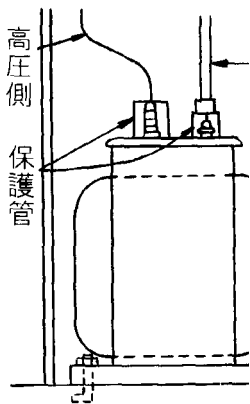
見



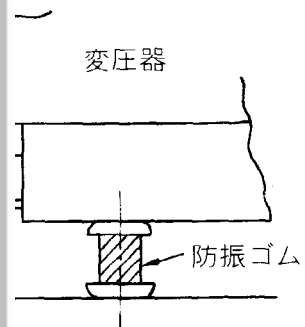
ブッシング式



リード線との接続



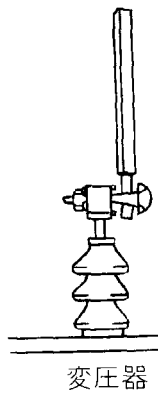
中・大形変圧器の結線



基礎ボルト

変圧器の防振施工

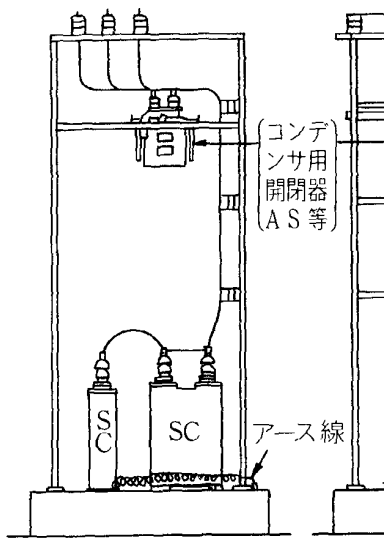
本



クランプ式端子

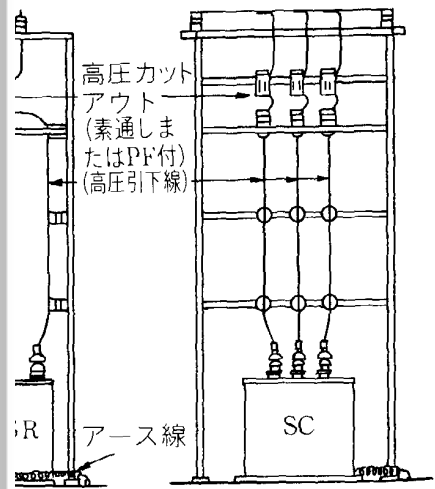


端子への接続



SC：高圧コンデンサ
SR：直列リアクトル

50kvar未満の場合



高圧カットアウト
(素通しまたはPF付)
(高圧引下线)

SR
アース線
SC

100kvar程度の場合

見

本